

# 「メディカル・ライフケアビジネス」 軽失禁下着「ウェルドライ®」と防塵・防ダニ布団カバー 「マイクロガード®」について

NI帝人商事株式会社  
リビング部 リビング二課

かじかわ たくお  
梶川 琢夫



NI 帝人商事(株)リビング部では、テイジンの超極細繊維であるマイクロスター®を使用した製品を企画提案しています。その中で、マイクロスター®の特性を生かした身近なメディカル・ライフケア商品の代表として軽失禁下着「ウェルドライ®」と防塵・防ダニ<sup>ぼうじん</sup>布団カバー「マイクロガード®」があります。

「ウェルドライ®」は、マイクロスター®の優れた吸水・速乾性能を利用して生まれた軽い尿漏れ用の軽失禁パンツ・ショーツ。もちろん洗濯機で洗えます。内側のクロッチ部分の色も身生地と同色にして、着脱の際に普通の下着と区別がつかないように、はく人の気持ちになってモノ作りをしています。すでに発売以来15年以上の実績を持っており、近年、ラインアップも充実してきました。女性用としてはレギュラータイプ10cc・50cc・120cc、五分丈10cc・60cc、機能とファッション性を両立させた「エフ」、男性用としてはブリーフ40cc、ソフトトランクス40cc・80cc、さらに2012年は男性用ステテコタイプ40ccもリリースしました。これらは時代のニーズに即して生まれたものです。

軽失禁は障害ではなく、年齢とともに誰もが抱える問題です。日本

は60歳以上が人口に占める割合は30%になります。通常で高齢者と呼ばれる65歳以上の人口も約3,000万人で、今後もさらに増えていくと思われま。超高齢社会に突入している日本において、エイジレス・ライフ（年齢にとらわれず自らの責任と能力において自由に生き生きとした生活を送る）の充実をサポートする製品として「ウェルドライ®」は、一層拡大するマーケット、高齢期におけるライフスタイルに合わせながら、今後も皆さまのご要望に応える商品開発を目指していきます。

「マイクロガード®」は超極細繊維



ウェルドライ®



マイクロガード®

時の寝具からの吸入であると考えられているため、寝具類からのダニ抗原の除去はぜんそくの発症および発作予防にハウスダストを減らす対策＝環境調整をしっかりと行うことが極めて重要になります。

のマイクロスター®を使用して緻密に織り込んだ生地で作られている防塵・防ダニの布団カバーおよび枕カバー。綿100%ブロードに比べて織物の繊維間隙が小さくフィルター性に優れており、ダニの出入りを物理的にシャットアウトしてわずかに数十マイクロンのダニのフンや死骸、ホコリも通しません。長繊維なので綿のように織物の表面に毛羽がなくホコリの発生もなく、洗濯を繰り返してもその効果は変わりません。防ダニ薬品も一切使用していませんので安心です。ファスナーの位置や縫い付け方法、生地の縫製にもこだわり、ダニを通さないための工夫が施されています。

「マイクロガード®」も多くのリピーターの皆さまを中心に支えられて2012年で21年目を迎えるロングセラー商品になりました。

アレルギーぜんそく・小児ぜんそくの通院者率は子供を中心に増えており、今後も気管支喘息やアトピーなどのアレルギー疾患に悩む方々は増えていくと考えられます。

アレルギーの一因とされるハウスダストには繊維クズだけでなく、ダニの死骸やフンも含まれていますが、アトピー性皮膚炎や気管支ぜんそくは室内のダニが大きく関与し、ダニの繁殖場所として、寝具が大きな要因になっていることも指摘されています。日常生活の中で最も多量にダニ抗原を吸入するのは日中の室内で活動している時ではなく、就寝

「マイクロガード®」はアレルギーの研究をする大学教授や専門医からその有効性についてアレルギー学会をはじめ、小児医学会などで発表されており、日本だけでなくアレルギー対策寝具として、世界9ヵ国（デンマーク、スウェーデン、スイス、英国、ドイツ、ポーランド、韓国、シンガポール、マレーシア）で販売され、デンマーク、スウェーデンでは医療用具として認められています。

世界的にもアレルギー疾患に悩む方々は増えていくと考えられ、「マイクロガード®」のような快適な環境を提供する商品の需要は今後も増えていきます。

われわれが築いてきたノウハウを生かし、「使用して良かった」と言ってもらえるような、商品作りに取り組んでいきたいと考えています。

メディカル・ライフケアに関するビジネスは成長産業として期待されています。われわれは素材、コンバーターの機能を生かしたモノ作りを得意とし、情報ソースを活かしながらマーケットの要望を製品化することを可能にしています。メディカルを含めたライフサポート商品は、これからも増え続け多様化していきます。この分野では、高いレベルの機能商品であることが大切であり、われわれの役割、活躍の場がさらに広がっていくことでしょう。

